

(様式例第11)

TMC発第77号
令和7年9月12日

栃木県知事 殿

住 所 栃木県栃木市境町27番21号
申請者 一般財団法人とちぎメディカルセンター
代表理事理事長
氏 名 森田 辰男

とちぎメディカルセンターしもつがの地域医療支援病院の業務報告について

標記について、医療法12条の2規定に基づき、2024年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒329-0043 栃木県栃木市境町27番21号
氏名	一般財団法人とちぎメディカルセンター 代表理事理事長 森田 辰男

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

とちぎメディカルセンターしもつが

3 所在の場所

〒329-4498 栃木県栃木市大平町川連420番地1	電話 (0282) 22-2551
--------------------------------	---------------------

4 病床数

精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床	合計
床	6床	床	床	301床	307床

(様式例第11)

TMC発第77号
令和7年9月12日

栃木県知事 殿

住 所 栃木県栃木市境町27番21号
申請者 一般財団法人とちぎメディカルセンター
代表理事理事長
氏 名 森田 辰男 印

とちぎメディカルセンターしもつがの地域医療支援病院の業務報告について

標記について、医療法12条の2規定に基づき、2024年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒329-0043 栃木県栃木市境町27番21号
氏名	一般財団法人とちぎメディカルセンター 代表理事理事長 森田 辰男

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

とちぎメディカルセンターしもつが

3 所在の場所

〒329-4498 栃木県栃木市大平町川連420番地1 電話 (0282) 22-2551

4 病床数

精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床	合計
床	6床	床	床	301床	307床

5 施設の構造設備

施設名	設備概要
集中治療室	(主な設備) 病床数 0 床
化学検査室	(主な設備) 骨髓像計数装置 血中ビリルビン定量計 顕微鏡 血液保冷库 遠心機 全自動尿分析装置 尿沈査児分析装置 全自動便分析装置 自動血球 分析装置 全自動血液凝固測定装置 生化学自動分析装置 糖尿病検査装置 血液ガス分析装置 全自動免疫装置
細菌検査室	(主な設備) バイオガードクリーンベンチ 遠心機 恒温孵卵器 インキュベーター オートクレーブ 落射蛍光顕微鏡 感熱滅菌器 遺伝子装置
病理検査室	(主な設備) ミクロトーム 自動細胞収集装置 システム生物顕微鏡 病理標本自動封入装置
病理解剖室	(主な設備) 解剖台 マクロ撮影装置 電子天秤
研究室	(主な設備) オーダリングパソコン インターネットパソコン
講義室	室数 1 室 収容定員 150 人音響装置 プロジェクター 椅子 机
図書室	室数 1 室 蔵所数 4000 冊程度
救急用又は患者 搬送用自動車	(主な設備) 保有台数 1 台
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 7.25 m ²

(注) 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器等を記入すること。

(様式例第12) 他の病院又は診療所から紹介された患者に対し医療を提供する体制が整備されている
ことを証する書類及び救急医療の提供実績

地域医療支援病院 紹介率		86.4%	算定 期間	2024年4月1日～2025年3月31日
地域医療支援病院 逆紹介率		94.4%		
算出 根拠	A：紹介患者の数			9489人
	B：初診患者の数			10986人
	C：逆紹介患者の数			10367人

1. 地域医療支援病院紹介率及び地域医療支援病院逆紹介率

- (注) 1 「地域医療支援病院紹介率」欄は、AをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記入すること。
- (注) 2 「地域医療支援病院逆紹介率」欄は、CをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記入すること。
- (注) 3 それぞれの患者数については、前年度の延数を記入すること。

救急医療を提供する能力を有することを証する書類

[illegible]

看護師	常勤	非専従	38.75 時間
看護師	常勤	非専従	38.75 時間
看護師	常勤	非専従	38.75 時間
看護師	常勤	非専従	38.75 時間
看護師	常勤	非専従	38.75 時間
看護師	常勤	非専従	38.75 時間
看護師	常勤	非専従	38.75 時間
看護師	常勤	非専従	38.75 時間
看護師	常勤	非専従	38.75 時間
看護師	常勤	非専従	38.75 時間
看護師	常勤	非専従	38.75 時間
看護師	常勤	非専従	38.75 時間
看護師	常勤	非専従	38.75 時間
看護師	常勤	非専従	38.75 時間
看護師	常勤	非専従	38.75 時間
看護師	常勤	非専従	38.75 時間
看護師	常勤	非専従	38.75 時間
看護師	常勤	非専従	38.75 時間
看護師	常勤	非専従	38.75 時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75 時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75 時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75 時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75 時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75 時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75 時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75 時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75 時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75 時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75 時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75 時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75 時間
放射線技師	常勤	非専従	38.75 時間
放射線技師	常勤	非専従	38.75 時間

[illegible]

検査技師		常勤	非専従	38.75時間
検査技師		常勤	非専従	38.75時間
検査技師		常勤	非専従	38.75時間
検査技師		常勤	非専従	38.75時間

2 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	12床
専用病床	0床

(注) 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記載すること。

3 重症救急患者に必要な検査、治療を行うために必要な診療施設の概要

施設名	床面積	設備概要	24時間使用の可否
診察室	513.90㎡	除細動器 心電図 患者監視装置 超音波診断装置 人工呼吸器	可
処置室	91.12㎡	患者監視装置	可
検体検査室	207.59㎡	(主な設備) 骨髓像計数装置 血中ビリルビン定量計 顕微鏡 分光光度計 血液製剤X線照射装置 血液保冷库 遠心機 全自動尿分析装置 尿沈査児室分析装置 全自動便分析装置 自動血球分析装置 全自動血液凝固測定装置 生化学自動分析装置 糖尿病検査装置 血液ガス分析装置 全自動免疫装置 (主な設備)	可
細菌室	23.15㎡	バイオガードクリーンベンチ 遠心機恒温孵卵器 インキュベーター オートクレープ 落射蛍光顕微鏡 乾熱滅菌器	可
病理室	25.67㎡	ミクロトーム 自動細胞収集装置 システム 生物顕微鏡 病理標本自動封入装置 パラフィン包埋ブロック作成装置 密閉式自動固定包埋装置 凍結ミクロトーム	可
生理検査室	268.14㎡	長時間心電図記録装置 心電計 重心動揺計 除細動器 超音波診断装置 誘発電位検査装置 呼吸機能分析装置 ストレステストシステム 長時間心電図解析システム 脳波計 血圧脈波検査装置	可
放射線室	746.71㎡	体外衝撃波結石破碎装置 X線一般撮影装置 X線骨密度装置 乳房用X線装置 全身用血管撮影装置 デジタルX線TVシステム 磁気共鳴画像装置 全身用X線CT装置	可

4 備考

救急告示病院 令和4年2月1日

(注) 特定の診療科において、重症救急患者の受入体制を確保する場合には、その旨を記載すること。

既に、救急病院等を定める省令（昭和39年厚生省令第8号）に基づき都道府県知事の救急病院の認定を受けている病院、救急医療対策の設備事業について（昭和52年7月6日付け医発第692号厚生省医務局長通知）に基づき救急医療を実施している病院にあっては、その旨を記載すること。

5 救急医療の提供の実績

救急用又は患者輸送自動車により搬入した救急患者の数	4532人 (1955人)
上記以外の救急患者の数	2375人 (449人)
合計	6907人 (2404人)

(注) それぞれの患者数については、前年度の延べ数を記入すること。

括弧内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

6 救急用又は患者輸送用自動車

救急用又は患者輸送用自動車	1台
---------------	----

(様式例第 14) 地域医療従事者による診療、研究又は研修のための利用（共同利用）のための体制が整備されていることを証する書類

(2) 共同利用の実績

1 共同利用の実績

・ コンピュータ断層撮影	471 件
・ 磁気共鳴コンピュータ断層撮影	1256 件
・ 胸部・骨盤計測レントゲン	13 件
・ 骨密度検査	117 件
・ 超音波検査・ABI 含む	316 件
・ ホルター心電図	1 件
・ 脳波検査	1 件
内視鏡検査	5 件
共同利用を行なった医療機関数	62 件
共同利用を行なった医療機関延べ数	2180 件
開設者と直接関係のない医療機関延べ数	2180 件
病床利用件数	0 件

(注) 前年度において共同利用を行った実績がある場合において、当該前年度の共同利用を行った医療機関の延べ数、これらの医療機関のうち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数、共同利用に係る病床の病床利用率を明記すること。

2 共同利用の範囲等

・ コンピュータ断層撮影
・ 磁気共鳴コンピュータ断層撮影
・ 胸部レントゲン
・ 骨盤計測レントゲン
・ 骨密度検査
・ 超音波検査
・ 血圧脈波検査(ABI)
・ ホルター心電図
・ 脳波検査
・ 内視鏡検査

(注) 当該病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用の対象とする予定のものを明記すること。

3 共同利用の体制

ア 共同利用に関する規定の有無 ☒ 有 ・ 無

イ 利用医師等登録制度の担当者 氏 名：

職 種：事務職員

(注) 共同利用に関する規定が有る場合には、当該規定の写しを添付する

とちぎメディカルセンターしもつが地域医療支援事業運営管理規程

(趣旨)

第1条 この規程は、とちぎメディカルセンターしもつが（以下「しもつが」という。）が地域の基幹病院として、救急医療をはじめ、かかりつけ医から紹介された専門的治療が必要な患者の診断・治療を行うなど、地域の診療所やクリニック等を支援することを方針とする。さらに、地域医療機関や施設との機能分担を図り、地域医療の向上に資するため、しもつがが行う地域医療支援事業（以下「支援事業」という。）の運営について必要な事項を定めるものとする。

(支援事業の範囲)

第2条 しもつがが行う支援事業としての共同利用の範囲は次のとおりとする。

- (1) 外来及び入院患者診療への参加
- (2) 手術への参加
- (3) 医療機器の利用
- (4) 研究施設（会議室、図書室）の利用
- (5) 共同連携ベッドの利用

(紹介患者に対する医療の提供)

第3条 しもつがは、地域医療機関からの紹介患者に対し、専門的治療を行うとともに、安全な医療を提供する。

2 しもつがは、病状が安定した患者については、紹介元医療機関または地域医療機関へ逆紹介する。

(登録医療機関)

第4条 登録医療機関とは、総合連携推進本部が、とちぎメディカルセンター病診連携登録医規程（2016年5月1日施行）第3条の規定に基づき登録した医師が所属する医療機関（以下「登録医療機関」という。）とする。

(登録医療機関の責務)

第5条 登録医療機関は、刑法第134条第1項（秘密漏示）に準拠し、しもつがより知り得た患者の個人情報及び診療内容について守秘義務を順守する。

(登録医)

第6条 登録医は、第4条第1項の規定により登録された医療機関に所属する医師とする。

2 しもつがは、共同利用する登録医に対し、その目的に鑑み報酬等は支給しない。

(共同利用)

第7条 登録医療機関が第2条に規定する共同利用を行う場合は、当該部門の指示において共同利用に当たる。

2 登録医療機関が第2条に規定する共同利用を行う場合は、しもつが組織には属せず、しもつが職員に対する直接の指示権限は有しない。

3 登録医療機関に属する医師、看護師、薬剤師、その他の医療従事者が会議室及び図書室を利用する場合、しもつがが定める利用規約等に基づき手続きを行うこととし、その事務は、患者総合支援センター地域医療連携室が行う。

(委託契約書)

第8条 登録医療機関が第2条第3号の規定に基づき医療機器の共同利用をする場合は、別に定める医療機器共同利用委託契約書を締結する。

(救急医療の提供)

第9条 しもつがは、24時間体制で地域医療機関からの紹介に基づく救急医療を行う。

(研修の実施)

第10条 しもつがは、地域医療機関の医療従事者を対象に、地域医療の資質向上を目指し各種研修を行う。

2 研修の企画、立案、運営及びその評価を行うため地域医療支援病院教育研修委員会(以下「教育研修委員会」という。)を設置する。

3 教育研修委員会の設置に関することは、別に定める。

(委員会の設置)

第11条 支援事業の円滑な運営、諸問題を協議することを目的として委員会を設置する。

2 前項の委員会は、とちぎメディカルセンターしもつが地域医療支援病院運営委員会(以下「運営委員会」という。)と称する。

3 運営委員会の設置に関することは、別に定める。

(情報公開)

第12条 支援事業及び登録医療機関における情報は、総務課と患者総合支援センター管理のもと、しもつが正面玄関のインフォメーション及びホームページに掲載する。

2 情報公開におけるインフォメーション及びホームページへの掲載内容については、委員会に報告する。

(規程の改廃)

第13条 本規程の改廃は、とちぎメディカルセンターしもつが経営戦略会議の議を経て、しもつが病院長が決定し、委員会に報告する。

附 則

この規程は、2022年4月1日から施行する。

医療機器共同利用委託契約書

委託者 _____ (以下「甲」という。) と受託者 一般財団法人とちぎメディカルセンター とちぎメディカルセンターしもつが (以下「乙」という。) とは、検査の委託に関し、次の通り契約を締結する。

(目的)

第1条 地域の医療機関との連携を図り医療機器を共同利用することで、地域におけるニーズに対応することを目的とする。

(検査の委託契約内容)

第2条 検査の委託契約内容は、次の各号によるものとする。

1. 甲は、検査の実施について乙に委託し、乙はこれを受託するものとする。
2. 甲は、検査の実施に当たり検査日時の予約を取り、患者に説明を行う。
3. 乙は、受託した検査を行い、その画像データ等を甲に渡す。

(検査項目)

- 第3条
1. 単純 CT 撮影
 2. 単純 MRI 撮影
 3. 単純 X 線撮影
 4. 骨塩定量検査
 5. 超音波検査
 6. 脳波検査
 7. ホルター型心電図検査

(委託料)

- 第4条
1. 乙が甲に請求できるものは検査料とし、その金額は健康保険法の診療報酬点数により算定した額とする（記録媒体（CD-R 等）の材料費を含む）。
尚、保険点数の改正の場合には、その改正点数に対応した額を請求するものとする。
 2. 乙は、甲の依頼を受けた患者について算定した金額を暦月末日で締切、一括して翌月の 10 日までに請求明細書を添付し、請求するものとする。
 3. 甲は、乙から支払い請求があったときは、その内容を審査し速やかに支払うものとする。支払方法については、請求月の翌月末日までに銀行振り込みにて支払うものとする。尚、振込手数料については甲の負担とする。

(委託期間)

第5条 この契約による委託期間は、____年 ____月 ____日から ____年 ____月 ____日までとする。但し、期間満了の 1 ヶ月前までに甲または乙から解除の意思表示がない時は、期間満了後の 1 年間この契約を延長するものとし、以後も同様とする。

(検査結果についての疑義)

第6条 検査結果に疑義がある場合は、次の各号により処理するものとする。

1. 甲は、検査結果受領後7日以内にその内容を通知しなければならない。
2. 乙は、前号の通知を受けたときは、甲と協議のうえ、再検査等適切な処置をしなければならない。

(契約の解除)

第7条 甲または乙は、次のことに該当するときはこの契約を解除することができる。

1. 甲または乙がこの契約に違反したとき
2. 乙において、受託業務の遂行が著しく困難になったとき
3. 健康保険法の改正による受託業務が困難になったとき

(検査実施中の事故責任)

第8条 検査実施中(開始から終了まで)に不慮の事故が生じた場合は、乙の責任において対処するものとする。

(個人情報の保護並びに守秘義務)

第9条 乙は、本契約に基づいて検査を実施するために知り得た患者の個人情報について、検査目的以外に使用しないものとする。

もし、乙により個人情報が漏洩した場合は、乙はその責任を負うものとする。

(契約についての疑義等)

第10条 この契約について疑義が生じた場合及びこの契約に定めのない事項については、その都度甲乙協議のうえ解決するものとする。

この契約を証する為、本書2通を作成し、甲乙双方が記名押印のうえ、各1通を保有するものとする。

年 月 日

甲 住 所
医療機関名
院 長 名

乙 住 所 栃木県栃木市大平町川連420番地1
医療機関名 一般財団法人とちぎメディカルセンター
とちぎメディカルセンターしもつが

病 院 長 名

4 登録医療機関の名簿

医療機関名	開設者名	住所	主たる診療科名	地域医療支援病院開設者との経営上の関係
別紙 「病診連携登録医一覧」				

注 当該病院と同一の2次医療圏に所在する医療機関のみ記入すること。

常時共同利用可能な病床数	7床
--------------	----

(様式例第15) 地域医療従事者の資質の向上を図るための研修を行わせる能力を有することの証明

1 研修の内容

別紙 「とちぎメディカルセンターしもつが研修会一覧 2024年度」

2 研修の実績

(1) 地域の医療従事者への実施回数	14回
(2) (1) の合計研修者数	458人

(注) 1 研修には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものを記入すること。

(注) 2 (2) には、前年度の研修生の実数を記入すること。

3 研修の体制

ア 研修プログラムの有無 ☒ 有・無

イ 研修委員会設置の有無 ☒ 有・無

ウ 研修指導者

研修指導者氏名	職種	診療科	役職等	臨床経験数	特記事項
	医師	婦人科	病院長	43年	教育責任者
	医師	放射線科	副病院長	41年	教育研修委員会委員長
	医師	外科	外科部長	29年	
	医師	腎臓内科	内科部長	25年	患者総合支援センター長
	看護師	看護部	看護部長	35年	
〃	看護師	看護部	看護副部長	31年	
	薬剤師	薬剤部	部長	37年	

	理学療法士	リハビリテーションセンター	室長	28年	
	臨床検査技師	臨床検査科	技師長	38年	

(注) 教育責任者については、特記事項欄にその旨を記載すること。

4 研修実施のための施設及び設備の概要

施設名	床面積	設備概要
図書室	85.89㎡	コピー機・パソコン5台 インターネット設備
講堂	236.62㎡	プロジェクター・音響設備・パソコン・電動スクリーン
	㎡	(主な設備)
	㎡	(主な設備)
	㎡	(主な設備)

病診連携登録医一覧

施設数 117 / 登録医数 119

2025 年 6 月 2 日現在

施 設 名	医 師 名	郵便番号	住 所	電 話 番 号
【栃木市地区】 60	61			
青木医院	青木 虎男	328-0072	栃木市嘉右衛門町 6-10	0282-20-6022
青木眼科医院	青木 真祐	328-0053	栃木市片柳町 1-15-26	0282-22-4641
秋元クリニック	秋元 明彦	328-0012	栃木市平柳町 2-27-13	0282-29-1131
アグリホームクリニック とちぎ	浜島 秀樹	328-0012	栃木市平柳町 1-14-7	0282-25-8297
天海整形外科	天海 裕至	328-0027	栃木市今泉町 2-17-13	0282-28-6036
天海内科	天海 陽子	328-0053	栃木市片柳町 1-6-40	0282-23-8333
池森クリニック	池森 亨介	328-0041	栃木市河合町 2-3 エクセルパルビル 2 F	0282-25-2577
石井内科医院	石井 重利	328-0042	栃木市沼和田町 49-1	0282-24-1615
いわい町クリニック	荒木 則幸	328-0052	栃木市祝町 4-30	0282-20-3000
うづまクリニック	大森 正規	328-0123	栃木市川原田町 1608-1	0282-24-4821
恵川いたみと漢方のクリニック	恵川 宏敏	328-0032	栃木市神田町 21-15	0282-22-0006
えぐち内科クリニック	江口 学	328-0017	栃木市錦町 9-5	0282-20-2255
大島医院	永谷 久美	328-0053	栃木市片柳町 1-17-19	0282-23-2116
おおやクリニック	大家 準	328-0053	栃木市片柳町 2-1-50	0282-24-8822
大山整形外科内科医院	大山 守	328-0006	栃木市国府町 306-1	0282-27-4609
岡田皮フ科耳鼻咽喉科クリニック	岡田 嘉右衛門	328-0043	栃木市境町 21-7	0282-25-2525
金子内科医院	金子 明弘	328-0125	栃木市吹上町 1642-1	0282-25-6031
金田医院	石嶋 秀行	328-0031	栃木市日の出町 1-6	0282-22-0415
亀田整形外科内科医院	亀田 正裕	328-0075	栃木市箱森町 25-72	0282-24-8800
河口医院	河口 達仁	328-0017	栃木市錦町 6-12	0282-22-5752

かわしまクリニック	川島 吉人	328-0033	栃木市城内町 2-34-20	0282-24-8239
蔵の街診療所	福地 将彦	328-0027	栃木市今泉町 1-17-29	0282-29-3131
好生医院	石塚 毅彦	328-0037	栃木市倭町 2-25	0282-22-0317
こばやしクリニック	小林 晃	328-0075	栃木市箱森町 51-40	0282-25-8300
こひらメディカルクリニック	轡田 啓子	328-0073	栃木市小平町 12-17	0282-20-1530
さいとう小児科	斉藤 伸夫	328-0015	栃木市万町 30-16	0282-22-0757
桜井こどもクリニック	櫻井 賢司	328-0034	栃木市本町 16-9	0282-24-5987
さくら眼科クリニック	大塚 信行	328-0053	栃木市片柳町 4-15-27	0282-20-5225
サンライズクリニック	盛川 宏	328-0031	栃木市日ノ出町 6-6	0282-24-4702
すずきクリニック	鈴木 紀男	328-0042	栃木市沼和田町 10-12	0282-20-2200
星風会病院 星風院	中野 俊至	328-0004	栃木市田村町 928	0282-27-3969
関口医院	関口 弘道	328-0014	栃木市泉町 21-3	0282-25-2223
大門内科医院	大門 康寿	328-0071	栃木市大町 27-24	0282-24-8131
高田クリニック	高田 良久	328-0015	栃木市万町 16-23	0282-23-9133
高田産婦人科医院	高田 秀一	328-0053	栃木市片柳町 1-17-3	0282-24-3211
竹田内科小児科クリニック	竹田 航一	328-0011	栃木市大宮町 52	0282-29-1233
たまのクリニック	玉野 稔博	328-0053	栃木市片柳町 1-6-3	0282-22-3777
ちづかクリニック	腰塚 学	328-0133	栃木市大森町 445-4	0282-31-3750
筒井医院	筒井 仁	328-0032	栃木市神田町 10-14	0282-22-1191
とちぎ診療所	嶋崎 勝典	328-0074	栃木市菌部町 2-11-4	0282-25-3225
栃木中央クリニック	粟田口 淳子	328-0015	栃木市万町 13-13	0282-22-0057
なかつぼクリニック	中坪 直樹	328-0075	栃木市箱森町 36-2	0282-20-5252
〃	古清水 岳志			
中野病院	中野 誠	328-0052	栃木市祝町 8-1	0282-22-0031
なかむら耳鼻咽喉科クリニック	中村 昭彦	328-0071	栃木市大町 22-58	0282-25-5141
中元内科医院	中元 明哉	328-0027	栃木市今泉町 2-10-18	0282-27-2325
成田内科	成田 淳夫	328-0041	栃木市河合町 9-10	0282-22-3722

なんばクリニック	難波 美津雄	328-0054	栃木市平井町 219-5	0282-24-7787
新村ファミリークリニック	新村 清美	328-0011	栃木市大宮町 2120-11	0282-28-0115
野崎医院	野崎 泰宏	328-0016	栃木市入舟町 14-3	0282-24-4809
のぞみ整形外科	林 衛	328-0053	栃木市片柳町 4-15-30	0282-20-1313
芳賀耳鼻咽喉科医院	芳賀 雅士	328-0051	栃木市柳橋町 6-28	0282-24-4701
はこのもりクリニック	齊藤 浩	328-0075	栃木市箱森町 25-62	0282-25-3636
橋本医院	橋本 安紀子	328-0024	栃木市樋ノ口町 396-39	0282-22-5875
平野整形外科医院	平野 貴章	328-0012	栃木市平柳町 1-35-5	0282-23-7300
ふじさわクリニック	藤澤 亨	328-0043	栃木市境町 1-23 隆盛館ビル 2 F	0282-20-0678
三浦整形外科	三浦 敦	328-0124	栃木市野中町 1381-10	0282-20-1158
箕輪内科	箕輪 均	328-0072	栃木市嘉右衛門町 10-6	0282-23-5588
山門クリニック	山門 悦子	328-0031	栃木市日ノ出町 6-35	0282-22-0765
よこやま内科小児科クリニック	横山 孝典	328-0075	栃木市箱森町 38-70	0282-24-8102
わたなべ内科・循環器科クリニック	渡邊 和宏	328-0124	栃木市野中町 625-1	0282-21-7528
【栃木市都賀町地区】 3	3			
合戦場クリニック	山田 吾郎	328-0113	栃木市都賀町合戦場 212-5	0282-29-1291
船越医院	船越 修二	328-0111	栃木市都賀町家中 5986-6	0282-27-5763
百瀬医院	百瀬 正明	328-0104	栃木市都賀町木 383-1	0282-27-8210
【栃木市大平町地区】 13	12			
あおき耳鼻咽喉科医院		329-4425	栃木市大平町新 1474-1	0282-43-3387
大平下病院	佐藤 隆文	329-4404	栃木市大平町富田 5002-1	0282-43-2222
大平東診療所	新崎 興二	329-4411	栃木市大平町横堀 808	0282-22-0173
大平ファミリークリニック	長 政利	329-4404	栃木市大平町富田 5-229	0282-43-7500
おおひらレディスクリニック	岸本 恭紀	329-4406	栃木市大平町下皆川 753	0282-43-8211
かわたクリニック	川田 浩	329-4421	栃木市大平町西野田 640-1	0282-45-2522
くろき内科クリニック	黒木 茂広	329-4401	栃木市大平町牛久 199-2	0282-20-5000

整形外科メディカルパパス	町田 敏	329-4423	栃木市大平町西水代 1943-1	0282-45-1366
田村医院	田村 治	329-4423	栃木市大平町西水代 1835-1	0282-43-3368
鶴見皮膚科	鶴見 純也	329-4425	栃木市大平町新 1540-31	0282-45-2212
藤沼医院	藤沼 彰	329-4404	栃木市大平町富田 592-1	0282-43-2233
みずほクリニック	小山 照夫	329-4401	栃木市大平町牛久 99-2	0282-25-1222
森川内科・外科クリニック	森川 丘道	329-4425	栃木市大平町新 1068	0282-45-2225
【栃木市藤岡町地区】 5	5			
腰塚医院	腰塚 康揚	323-1104	栃木市藤岡町藤岡 1845-10	0282-62-2072
藤岡診療所	天野 一夫	323-1104	栃木市藤岡町藤岡 5005	0282-62-9962
藤岡整形外科クリニック	鈴木 基廣	323-1104	栃木市藤岡町藤岡 25	0282-61-1070
持田医院	持田 忍	329-0319	栃木市藤岡町中根 115-5	0282-67-3661
わたらせ在宅診療所	伊奈 啓輔	329-0317	栃木市藤岡町帯刀 48-1	0282-25-7618
【栃木市岩舟町地区】 11	11			
安純の里	松永 安優美	329-4311	栃木市岩舟町古江 405	0282-55-2000
あまがい内科医院	天下井 正弘	329-4308	栃木市岩舟町下津原 189-2	0282-55-7811
江田クリニック	江田 証	329-4314	栃木市岩舟町小野寺 2575-7	0282-57-1234
熊倉医院	熊倉 忍	329-4316	栃木市岩舟町新里 180	0282-55-8425
小松原医院	小松原 利典	329-4307	栃木市岩舟町静 550-2	0282-55-2026
静和医院	青木 章	329-4304	栃木市岩舟町静和 2166-1	0282-55-2028
しまだクリニック	島田 均	329-4309	栃木市岩舟町畳岡 534-1	0282-55-1500
高橋眼科	高橋 直人	329-4307	栃木市岩舟町静 843	0282-54-1132
博愛クリニック	石川 博人	329-4307	栃木市岩舟町静 1071-1	0282-55-2425
橋本腎内科クリニック	橋本 義孝	329-4303	栃木市岩舟町和泉 1457-1	0282-54-3377
長谷川医院	長谷川 秀実	329-4304	栃木市岩舟町静和 2114-6	0282-55-7000
【小山市地区】 8	8			
小山イーストクリニック	大橋 博	323-0022	小山市駅東通り 1-32-1	0285-24-2200

小山すぎの木クリニック	朝倉 伸司	323-0806	小山市中久喜 1113-1	0285-30-3456
川村内科医院	川村 肇	323-0822	小山市駅南町 5-16-12	0285-28-1332
ソフィアホームケアクリニック	吉積 功	323-0812	小山市土塔 175-24	0285-39-6940
田村整形外科	田村 興太郎	323-0028	小山市若木町 2-10-20	0285-24-6161
船田内科歯科医院	船田 隆	323-0007	小山市松沼 578	0285-37-0010
星野病院	星野 聰	329-0201	小山市粟宮 1-7-8	0285-23-7227
水越内科クリニック	水越 和夫	323-0826	小山市雨ヶ谷 506-1	0285-28-7880
【下都賀郡地区】 7	7			
大橋内科クリニック	大橋 裕二	321-0219	下都賀郡壬生町福和田 1003-1	0282-82-8522
小倉医院	小倉 建夫	321-0227	下都賀郡壬生町通町 10-5	0282-82-0057
おもちゃのまち内科クリニック	安楽 幸悦	321-0203	下都賀郡壬生町幸町 2-11-2	0282-86-1517
多島外科胃腸科	多島 直衛	321-0214	下都賀郡壬生町壬生甲 3072-1	0282-82-7500
野木病院	麦倉 匡史	329-0101	下都賀郡野木町友沼 5320-2	0280-57-1011
花の舎病院	近藤 智善	329-0112	下都賀郡野木町南赤塚 1196-1	0280-57-1200
ゆりなメディカルパーク	三橋 梅八	329-0111	下都賀郡野木町丸林 662-3	0280-57-0000
【下野市地区】 2	2			
めぐみ乳腺クリニック	尾崎 めぐみ	329-0414	下野市小金井 2609	0285-40-0088
れもん在宅クリニック	吉住 直子	329-0434	下野市祇園 1-13-2	0285-39-8732
【佐野市地区】 5	5			
あきもと小児科医院	秋本 一	327-0844	佐野市富岡町 1561-2	0283-21-3322
佐野在宅診療所	伊奈 啓輔	327-0003	佐野市大橋町 1997-23	0283-21-2688
鈴木内科クリニック	鈴木 修	327-0831	佐野市浅沼町 50-2	0283-23-0117
匠レディースクリニック	中野 貴史	327-0842	佐野市奈良瀬町 339-4	0283-21-0003
ますだトータルケアクリニック	増田 雄彦	327-0844	佐野市富岡町 753	0283-86-9933
【足利市地区】 1	3			

長崎病院	長崎 秀彰	326-0053	足利市伊勢町 1-4-7	0284-41-2230
〃	千葉 義和			
〃	千葉 泰子			
【宇都宮市地区】 1	1			
中川内科クリニック	中川 洋一	321-0157	宇都宮市幕田町 736-9	028-658-8883
【県外】 1	1			
県西在宅クリニック	岩本 将人	306-0205	茨城県古河市関戸 1635	0280-23-2618

資料 3

とちぎメディカルセンターしもつが研修会一覧

2024年度

医療者対象研修会									
No	日 付	項 目	題 名	講 師	出 席 者				
					院外	院内	Web	合計	
1	6.13	第22回 思川運動器セミナー	『医療連携の実態と成果～大腿骨近位部骨折、椎体骨折は減ったか？頸骨壊死は減ったか？～』		22	13		35	
2	6.27	地域医療支援病院研修会	～各領域における紹介患者の症例検討会～		3	21	11	35	
3	7.4	地域医療連携懇話会	心不全治療薬について/乳腺科発症しました/ 地域医療連携における救急外来の役割		15	48		63	
4	7.31	下都賀地区病診連携の会	心腎連関を考慮した心不全治療におけるSGLT2阻害薬の位置づけ/慢性腎臓病治療におけるSGLT2阻害薬の意義				34	34	
5	8.27	第1回感染対策合同カンファレンス	手指衛生の重要性と実践・医療施設における環境整備		43	7		50	
6	9.18	地域医療支援病院研修会	膝前十字靱帯再建術前後に対する当院の評価とリハビリテーション				15	15	
7	10.16	地域医療支援病院研修会	当院における野球肘障害に対するリハビリテーション				8	8	
8	10.31	地域医療支援病院研修会	症例検討会(救急科)		4	10	23	37	
9	11.5	第2回感染対策合同カンファレンス	個人防護具(PPE)の適正使用		46	7		53	
10	11.15	栃木県の緩和ケアを考える ～疼痛から心のケアまで～	薬剤師の立場からオピオイド治療薬の適正使用について 在宅医療における緩和ケア～心を支えるか～				40	40	
11	11.21	地域連携で診る循環器疾患診療	心不全急性期管理と慢性期管理		9	4		13	
12	12.12	第23回思川運動器セミナー	がんロコモにおける神経障害性疼痛診療の重要性		25	6		31	
13	12.18	2024年度栃木地区臨床検査技師 研修会	肝炎ウイルスマーカーの基礎と特徴		6	22		28	
14	1.17	第26回CPC	きわめてまれな小腸悪性腫瘍の1例 -SMARC4欠損未分化腫瘍-		0	16		16	
15									
16									
					合 計	173	154	131	458

地域住民対象研修会									
No	日 付	項 目	題 名	講 師	出 席 者				
					院外	院内	Web	合計	
1	6.1	市民公開講座	フレイル予防講座～健康長寿への第一歩～ 第1部 医学の進歩と老化への挑戦/第2部 長寿への挑戦					120	
2	7.20	市民公開講座	よくわかる！腎臓のはなし ～腎臓を守るポイント～ 第1部生活習慣病と腎臓/第2部腎臓とくすり/第3部腎臓を守るための食事					180	
3	10.12	市民公開講座	しもつが救急外来について 栃本市救急体制の最前線					100	
4	11.30	市民公開講座	1.心不全ってなに？ 2.命を守るために知っておきたい心筋梗塞 3.心臓が原因で起こる脳梗塞？ 4.高齢者のための最新カテーテル治療					244	
5	2.22	市民公開講座	守ろう！みみ、はな、のどの健康 嚥下(飲み込み)とリハビリテーション					147	
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
					合 計				791

出席者総合計					173	154	131	1249
--------	--	--	--	--	-----	-----	-----	------

管理責任者氏名	病院長
管理担当者氏名	事務部長

		保管場所	分 類 方 法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、入院診療計画書、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		電子カルテ、及び各部門システムにて保存 一部紙カルテは医事課で保存	日誌は部署で管理 紙媒体についてはスキャンし電子カルテに保管後、原本は診療情報管理課で管理
病院の管理及び運営に関する諸記録	共同利用の実績	地域医療連携室	年度毎に分類
	救急医療の提供の実績	地域医療連携室	年度・科別に分類
	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績	地域医療連携室	年度毎に分類
	閲覧実績	診療情報管理課	年度毎に分類
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	地域医療連携室	年度毎に分類

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式例第17) 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

閲覧責任者氏名	事務部長 ；
閲覧担当者氏名	診療情報管理課長
閲覧の求めに応じる場所	診療情報管理課、

閲覧の手続の概要

病院管理に関する日誌類

- ① 事前に閲覧文書、閲覧目的を記載した「文書開示請求書」を閲覧担当者へ提出
- ② 提出された「文書開示請求書」により、開示の可否を決定
- ③ 開示可能と決定した場合は、開示請求者に対して開示日時などを連絡
- ④ 開示当日は、閲覧担当者が立ち会い、閲覧を行う

診療録関係

- ① 閲覧の希望及び閲覧の書類閲覧日を事前に連絡
- ② 閲覧当日は、所定の用紙に氏名、患者氏名を記載
- ③ 閲覧場所で閲覧担当者が立ち会い閲覧を行う
- ④ 閲覧後、入院中の患者と面談、診察を行った場合は、面談内容を主治医に連絡する。

前年度の総閲覧件数		0件
閲覧者別	医師	件
	歯科医師	件
	地方公共団体	件
	その他	件

2024 年度

とちぎメディカルセンターしもつが 地域医療支援病院運営委員会議事録

日時：2024 年 6 月 7 日（金）13：30～14：00

場所：とちぎメディカルセンターしもつが A会議室

出席者：横山下都賀郡市医師会副会長 町田下都賀歯科医師会会長 武本栃木地域薬剤師会会長
中村栃木県南保健所所長 毛塚栃木市健康増進課長 中村栃木市消防本部警防課長
渡邊救急管理消防司令 病院長 ！ 副院長 の総合連携推進部長 事務部長
高岩看護部長 看護副部長

1. 開会 院長

2. 挨拶 院長

3. 議事

(1) 2023・2024 年度実績について

① 救急医療の実績

◇2023・2024 年度月別救急患者数合計

資料 1-2

2023 年度救急患者総数（ウォークイン含む）は 6,100 名、2022 年度は 5,885 名で 215 名の増加。

救急搬送患者数は 3,860 名（救急来院患者の 63.3%）、2022 年度は 3,449 名で 411 名の増加。

うち入院患者数は 1,585 名、入院率は 41.1%。

ウォークイン患者数は 2,240 名（救急来院患者の 36.7%）、2022 年度は 2,436 名で 196 名の減少。

うち入院患者数は 334 名、入院率は 14.9%。

月別では 7 月・8 月・12 月の搬送数が多く、県内全域でも救急車要請数も多かったと伺った。

一報 2022 年度と比較してウォークイン患者に減少傾向がみられる。独居の高齢者が多いことや体動困難な高齢者が多いことからウォークインでなく救急搬送につながる要因ではないかと推測する。

【当番日】※当番日とは、木・土・祝日を除く 20 日/月ほど

救急患者総数は 3,788 名（前年比 41 名増加）

うち救急搬送患者数 2,595 名（前年比 194 名増加）救急来院患者の 68.5%

救急搬送患者数のうち入院患者数 1,111 名（前年比 92 名増加）入院率は 43.8%

うちウォークイン患者数 1,193 名（前年比 153 名減少）

ウォークイン患者数のうち入院患者数 198 名（前年比 62 名減少）入院率は 16.6%

【当番外】

救急患者総数は 2,312 名（前年比 174 名増加）

うち救急搬送患者数 1,265 名（前年比 217 名増加）救急来院患者の 54.7%

救急搬送患者数のうち入院患者数 474 名（前年比 88 名増加）入院率は 37.5%

うちウォークイン患者数 1,047 名（前年比 43 名減少）

ウォークイン患者数のうち入院患者数 136 名（前年比 13 名減少）入院率は 13.0%

(様式例第18) 委員会の開催の実績

(注) 委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。

委員会の開催回数	4 回	
委員会における議論の概要		
別紙 「とちぎメディカルセンターしもつが地域医療支援病院運営委員会議事録」		

資料 1-1

2024 年度救急患者総数（ウォークイン含む）は 498 名、2022 年度は 410 名で 88 名の増加。
救急搬送患者数は 324 名（救急来院患者の 65.1%）、2023 年度は 270 名で 54 名の増加。
うち入院患者数は 131 名、入院率は 40.4%。
ウォークイン患者数は 174 名（救急来院患者の 34.9%）、2023 年度は 140 名で 34 名の増加。
うち入院患者数は 24 名、入院率は 13.8%。
昨年度と比べると総数・救急搬送数・ウォークインともに増加となっている

【当番日】※当番日とは、木・土・祝日を除く 20 日/月ほど

救急患者総数は 339 名（前年比 58 名増加）
うち救急搬送患者数 235 名（前年比 36 名増加）救急来院患者の 69.3%
救急搬送患者数のうち入院患者数 98 名（前年比 10 名増加）入院率は 41.7%
うちウォークイン患者数 104 名（前年比 22 名増加）
ウォークイン患者数のうち入院患者数 17 名（前年比 9 名増加）入院率は 16.3%

【当番外】

救急患者総数は 159 名（前年比 30 名増加）
うち救急搬送患者数 89 名（前年比 217 名増加）救急来院患者の 55.9%
救急搬送患者数のうち入院患者数 33 名（前年比 9 名増加）入院率は 37.1%
うちウォークイン患者数 70 名（前年比 28 名減少）
ウォークイン患者数のうち入院患者数 7 名（前年比 1 名減少）入院率は 10.0%
◇救急車受入困難件数・事由

資料 1-3

今年度 4 月の救急車受入困難件数は 71 件、割合としては約 18%の受入困難があった。
理由として、救急重複・病棟急変・満床が 28 件と最も多かったが 28 件のうち 1 件が病棟患者対応
27 件が患者重複によるものであった。満床による受入困難はなかった。

2 次救急適応外と判断した件数が 12 件、内容は 3 次へと医師が判断した症例が 7 件、うち 4 件は
大学病院に関連疾患で通院中の患者であった。他にはショックバイタル、胸痛があり 1 年前に大学
病院で心臓カテーテル検査を行っているケースや交通事故後の鼻出血などであった。

2 次・3 次以外のかかりつけ医へと医師が判断した内容は、コロナ陽性、発熱体動困難、ふらつき
等の患者であった。各診療科での対応困難件数は 27 件、内容は脳血管疾患が疑われるケースが 9
件と最も多く、その他は耳鼻科や小児科、精神科対応がご依頼の時点で予測されるケースや胸痛な
どの循環器内科対応困難な症例があった。また当院救急外来で 1 度受け入れた後に大学へ転院搬送
となるケースも増加しており、4 月 11 件、5 月 12 件、内容は大動脈解離、AMI、脳出血、消化管
穿孔の緊急 OPE を必要とする患者の事例がみられた。獨協・自治で対応が難しく済生会宇都宮病
院など少し遠方の病院に搬送されることもあった。

2023 年度の救急車受入困難件数は 1,658 件、割合としては約 30%の受入困難があった

前回 3 月の会議で報告した通り、1 月は 279 件の受入困難があり、4 割を超えていた。

理由としては新型コロナウイルス院内クラスターによる入院制限があったことが影響している。

2 月も救急重複や病床満床などの理由が 71 件と多くみられたが、冬場の特徴として入院患者が例
年増加する傾向にあり、病床管理が困難な状況がみられた。

○4月の救急搬送件数が多いという印象を受けたが、受入困難数が増えていないのは日勤帯の受入を頑張っているということか。準夜帯、夜勤帯の受入はどうなっているのか。

- ・昨年8月に常勤医不在となり、非常勤医師のみの対応であったが、本年4月より救急外来常勤医師が1名加わり受入が多くなったと思われる。
- ・準夜帯、夜勤帯の受入困難数も、昨年度と比較すると減少している。

○小児の受入困難については、入院が必要な症例ということか

- ・小児については依頼自体少ないが、痙攣や0歳児のCPAなどの受入困難があった

○では実際に現在受入が厳しいのは耳鼻科か。

- ・年度末より常勤医不在のため厳しい。近隣耳鼻科の先生方にはお知らせしてある

○消防署側の救急車出場件数について、ここ近年1,000件くらいずつ増加している。

2021年6,329件、2022年7,029件(+700件)、2023年8,042件(+1,013件)今年度についても1,000件程増加の見通し。4月から常勤医加わり受入状況はすごく助かっている。

○世間でよく聞く「タクシー代わりに救急車要請」は実際にあるものなのか

- ・あくまで救急車は搬送することが義務とされていることから、119番入電時でのお断りはできず、実際に現場に行ってみての判断となる為、当番医やかかりつけ医に連絡して医師側から指示を受けて不搬送となるケースも中にはある。

○救急搬送されて入院しなかった場合の「選定療養費」は必ず算定しているのか。必要以上の救急車要請を防ぐためにも大々的に発信してみてもどうか

- ・必ずしも選定療養費を算定しているか把握していない。救急外来入口やホームページへの掲載はあるが、さらに分かり易い表示を検討していく。
- ・三重県「救急車有料化」についてかなり大々的にPRしているが、誤解を生んでいる。
- ・新小山市市民病院については、小山市役所を通して市民へ情報を発信している。市民への誤解を生まないためにも、栃木市役所と情報共有しながら進めてみてはどうか()

② 紹介患者に対する医療の実績（紹介率・逆紹介率）

◇地域医療支援病院紹介率・逆紹介率月別調べ

資料2

2023年度 紹介患者数9,209件、逆紹介件数9,502件、紹介率84.5%、逆紹介率87.2%

2022年度 紹介患者数9,024件、逆紹介件数9,457件、紹介率78.2%、逆紹介率82.0%

紹介患者数、割合ともに増加していた。

2024年度 紹介患者数702件、逆紹介件数752件、紹介率80.6%、逆紹介率86.3%

連携室ではご紹介いただいた先生方へすぐに医師からのご報告が届くよう、返書管理を行っている。来院数日後に確認し未返書の場合は医師への声掛けと、事務的な来院報告をさせていただいている。当院へご紹介いただいた患者さんの件で不明な点は連携室までご連絡いただきたい。

③ 研修会について

◇研修会一覧

資料3

2023年度は救急隊の方との事例検討会を含め、16回の地域医療支援病院研修会を開催。

地域住民対象の研修会、市民公開講座も3回開催することができ、多くの方にご参加いただいた。

2024年度は延期等もありまだ実施できていないが、6月に2つの研修会を予定している。

6月27日（木）は、消化器内科と外科の症例検討会を計画している。

○市民公開講座のリクエスト「子宮頸がんのキャッチアップ制度について」

様々な場面で広報活動しているが、なかなか患者の増加に繋がらないのが現状であり、怖いというイメージも相まって進んでいないのではないかと。期限もあるのでうまく制度を利用するように促す公開講座を実施してほしい

- ・10周年記念誌の発行時、公開講座の開催を栃木市の協力を得て中学校全父兄の自宅に通知した。結果として参加に繋がったかは芳しくなかった。7月20日に実施予定の公開講座については、何らかの形で手段を変えてPRし、市民の参加を促進できるよう検討する。
- ・子宮頸がんについては単独での集客は難しそう。別の表題と併せての同時開催が望ましい。1度推奨があったにも関わらず取り下げられた理由は、ワクチン接種後原因不明の痛みの発生など様々な事例が生じて騒ぎになったことによる。ワクチンの接種で救える癌疾患は子宮頸がんと肝臓がんのみであり、十分に伝わっていない部分もあるため、なんとか普及させたい。

④ 共同利用実績について

◇共同利用件数の実績

資料4

2024年度4月の実績

CT:37件、MRI:85件、骨密度:10件、超音波:33件、合計165件

検査の共同利用とは異なるが、登録医療機関の先生から図書室利用に関するご相談を受けて実際にご利用いただいた。先生方の研究のためにご利用いただく際は連携室へご相談ください。

資料と別で、在宅療養後方支援病院の役割として10件の医療機関と連携し、これまで累計79名の患者さんにご登録いただき、32名の患者さんの入院受入れを行った。現在は43名の患者さんが登録されており、4月以降は毎月1名が入院となっている。

(2) その他

○在宅医療を行っている患者が急変し、しもつがへ救急受入の連絡をしたところ、在宅医が診療してからでないといけないと受け入れられないと断られた事例が発生した。常勤でない医師が対応したとの事で、非常勤医師や若年医師がシステムを理解せず誤った判断をしてしまうのではないかと。

- ・直接お話を伺い調査したところ、救急科常勤医師は間違った判断との認識があった。少々やり取りのすれ違いもあったようで、連絡を受けた際に急変ではなく「数日前から症状があった」とのお話であったため、かかりつけの医師に相談してみてもと回答をしたとのこと。そういった所も含めて、救急科の医師が指導していく所存。

○下都賀歯科医師会より今回の診療報酬改定に伴って、歯科外来診療医療安全対策加算が見直され、連携保険医療機関としてもつがを選択したい場合、どのような手続きをとるべきか。依頼する際ひな形はあるのか。書式は統一するべきではないかと。

- ・既に1例お問合せをいただいた案件があった。現在ひな形は特に作成しておらず、病院長宛に届出用紙と依頼文をもらい、対応した。1例を参考に、ひな形を作成して統一する。

(3) 次回開催について 2024年9月6日(金) 13:30 ~ A会議室(予定)

4. 閉会 院長 :

2024 年度

とちぎメディカルセンターしもつが 地域医療支援病院運営委員会議事録

日時：2024年9月8日（金）13：30～14：15

場所：とちぎメディカルセンターしもつが A会議室

出席者：横山下都賀郡市医師会副会長 町田下都賀歯科医師会会長 武本栃木地域薬剤師会会長
中村栃木県南保健所所長 毛塚栃木市健康増進課長 中村栃木市消防本部警防課長
病院長 副院長 総合連携推進部長 事務部長 看護部長
早乙女看護副部長

1. 開会 病院長

2. 挨拶 病院長

(1) 2024年度実績について

3. 議事

① 救急医療の実績

◇2023・2024年度月別救急患者数合計

資料1-1、1-2

2024年度7月までの報告。救急患者数（ウォークイン含む）2,200名、うち救急搬送患者数は1,420名、救急搬送患者率は64.5%。救急患者の入院数は601名、入院率は42.3%。ウォークイン来院は780名で、入院数は148名、入院率は19.0%。

2023年度7月までと比較すると救急患者数（ウォークイン含む）1,901名で299名の増加。救急搬送患者数1,219名で201名の増加。ウォークイン来院は682名で98名の増加。

例年7月8月は救急搬送が多くなるが、今年度7月は救急搬送患者数447件で救急要請件数552件に対し救急搬入率は81.6%、これまでに受入れ件数が400件を超えたのは初めてとなる。

2023年度の7月も救急搬送患者数は364件と多かったが、救急搬入率は69.7%。今年度は特に救急搬送の受入れが多くみられている。

【当番日】

救急患者数（ウォークイン含む）1,409名、2023年度と比較し154名の増加。

救急搬送患者数は975名、2023年度と比較し102名の増加。

救急患者の69.2%が救急搬送。

救急患者の入院数は434名、入院率は44.5%。

ウォークイン来院は434名、2023年度と比較し32名の増加。

【当番外】

救急患者数（ウォークイン含む）は791名、2023年度と比較し145名の増加。

救急搬送患者数は445名、2023年度と比較し99名の増加。

救急患者の56.3%が救急搬送。救急患者の入院数は167名、入院率は37.5%

ウォークイン来院は346名、2023年度と比較し17名の増加。

当番日・当番外の比較では、救急患者の救急搬送割合が当番日69.2%、当番外56.3%と当番日の方が高い傾向。救急搬送患者の入院率も高い傾向がある。

当院で救急受入れをしたあと、救急外来から3次医療機関等他院への転院も増加。2023年度は月平均7.3件の転院搬送に対し、今年度は11.5件で、主に緊急手術が必要な消化管穿孔や絞扼性イレウス、くも膜下出血、虚血性心疾患の緊急カテが必要な事例などであった。

◇救急車受入困難件数・事由

資料1-3

2024年度7月までの救急車受入困難件数は301件。理由としては、救急車重複・病棟急変・満床が110件と最も多い。特に7月の救急車重複は44件と多く見られるが、救急搬送の受入れが過去にない件数のため、救急外来での重複受入困難が多くみられた。平日日中は、救急外来医師が2名以上の体制となり受入困難が減少しているが、44件のうち8件は平日日中の重複受入困難で、5名は救急受入れ後にお断りとなった。

2次救急適応外との判断は、交通外傷や手指の切断、意識障害やけいれん、他院かかりつけがあるなど。各科での対応困難は、精神疾患疑い、透析対応が必要、耳鼻科や小児科、対応が予測されるケースや胸痛など循環器対応が困難な事例など。

② 紹介患者に対する医療の実績（紹介率・逆紹介率）

◇地域医療支援病院紹介率・逆紹介率月別調べ

資料2

2024年度7月までの累計で紹介患者数3,228名・紹介率86.0%、逆紹介数3,570名・逆紹介率95.1%。

2023年度7月までの累計と比較し、紹介患者数261名の増加、逆紹介数577名の増加。

腎臓内科の常勤医2名体制（予約制）となり、多くのご紹介をいただいている。

③ 研修会について

◇研修会一覧

資料3

2024年度は、現在まで6回の研修会を開催。リハビリテーション部門の研修会が直前で中止となったが後日開催予定。

○HPVワクチンのキャッチアップ接種啓発について

・7月の市民公開講座では前回の横山先生のご意見を元に、HPVワクチンのキャッチアップ接種啓発について動画を作成し、啓発動画を上映した。また資料にQRコードをつけて配布した。8月に入って市役所から未接種対象者の約6割（4,351名）に動画鑑賞のハガキが発送された。

8月いっぱいまでで139件の視聴件数で伸びていない。

接種申込状況は7月対比で、しもつが9件と少ない状況だが倍以上にはなっている。とちのきは4件。定期接種が2件増えた。

- ・未接種の方に対するハガキ通知の影響は大きく、問い合わせ件数が倍増した。申込が今までと比べ1.5倍に増えた状況になっている。

- ・お盆明け後から接種率が上がっている。ハガキの効果が非常に良かった。今までHPVワクチンのキャッチアップ接種を全く知らなかったというケースもあり、医療機関だけではなく歯科も含めて学校など声掛けや説明をお願いしたい。

- ・学校長の先生方が集まる機会にPRさせていただいている。()

○10月開催予定の市民講座について（別紙あり）

- ・第2部で「栃木市救急体制の最前線」を栃木市消防本部 渡部様にご講演いただく。
- ・8月から通信指令センターで新しく「映像通報システム Live119」を導入。現場から119番を受けた場合、スマホを介して現場の情報を映像で収集、データで見るシステム。()

④ 共同利用実績について

◇共同利用件数の実績

資料4

2024年度7月までの件数 CT 169件、MRI 438件、胸部腹部骨盤の単純撮影5件、骨密度43件、超音波116件、脳波1件、内視鏡1件 計773件。

2023年度と比較し、ほぼ同様の件数。

(2) その他

- ・登録医療機関の先生から図書室のご利用いただいている。先生方の研究などにご利用いただきたい。()
- ・在宅療養後方支援病院の役割として、10の医療機関と連携し、今年度は3名の緊急入院を受入れている。

○救急外来より、施設またはグループホーム等に入所されている方の救急搬送について

- ・夜間の救急搬送時に患者の情報がわからない。特に内服薬や既往歴など。情報がわかるようなものを持ってきてもらえるといいのだが。
- ・救急要請時に、救急隊からそういった資料があるか聞いてもらおうといいのでは。

○歯科医師会より

- ・歯科外来診療の医療安全対策加算のガイドラインができた。
- ・薬物性歯肉増殖症について、症状なく進行した状態で歯科受診にみえる。患者の共通問題は薬の副作用を一切知らない。患者に副作用の説明文を渡すだけで随分違うのではないか。20%くらいの割合でこういうことが起きることをと伝えていただきたい。(別紙あり)

○栃木市消防本部より

- ・栃木市在住の方から栃木市消防本部へ救急車の有料化についての問い合わせがあった。しもつがに救急搬送された方で、しもつがから何かの請求書が郵送で届いたとのこと。救急車での搬送に関する請求書ではないことを説明し、病院に確認するよう対応した。どんな内容の請求書かわからないが、誤解を招くような表記があれば修正いただきたい。()
- ・救急搬送された患者であっても、緊急性がない例えば介護タクシー代わりのように使用し、帰宅できるような軽度の場合、選定療養費が請求できる場合があるが、当院は救急搬送の患者には請求していない。()

(3) 次回開催について 2024年12月6日（金）13：30～予定

2024年度

とちぎメディカルセンターしもつが 地域医療支援病院運営委員会議事録

日時：2024年12月6日（金）13：30～14：15分

場所：とちぎメディカルセンターしもつが 講堂

出席者： 下都賀郡市医師副会長 下都賀歯科医師会会長 栃木地域薬剤師会会長
地域保健部部長補佐（代理出席） 栃木市健康増進課課長 栃木市消防本部警防
課長 栃木消防本部警防課救急管理係長（代理出席）
病院長 副院長 総合連携推進部長 事務部長 看護副部長

1. 開会 病院長
2. 挨拶 病院長
3. 議事

（1）2024年度実績について

①救急医療の実績

資料1-1、1-2

2024年度10月までの報告。救急患者総数（ウォークイン含む）3,967名、うち救急搬送患者数は2,564名で、救急搬送患者率は64.6%。入院数は1,100で入院率は42.9%。ウォークイン患者は1,403名で、うち入院は259名、入院率18.5%。2023年10月までと比較すると、救急患者総数（ウォークイン患者含む）は3,565名だったので、402名増加。救急搬送患者は329名の増加、救急搬送入院患者数も203名増加で、ウォークイン患者も73名の増加。例年7月と8月は救急搬送患者が多い傾向だが、今年度はともに400件を超え、搬入率も80%を維持している。

【当番日】

救急患者数は2,529名で、前年と比較すると189名の増加。そのうち救急搬送者数は1,743名で153名の増加。救急患者の68.9%が救急搬送で、入院790名。入院割合は45.3%。ウォークイン患者は786名で33名の増加であった。

【当番外】

救急患者数は1,438名で、前年と比較すると216名の増加。そのうち救急搬送者数は821名で176名の増加。救急患者の57.1%が救急搬送で、入院310名。入院割合は37.8%。ウォークイン患者は617名で40名の増加であった。

当番日・当番外の比較では、救急外来受診患者の救急搬送割合が、当番日68.9%、当番外57.1%と、当番日の方が高い傾向である。また、救急搬送患者の入院割合も当番日の方が高い。

昨年までは救急搬入率が6～7割程度だが、今年度は8割以上を維持している。また、一旦当院で救急受け入れをした後、救急外来から3次医療機関等、他院への転院も増加している。昨年度は10月までに44件の転院搬送があったが、今年度は78件となっている。症例としては主に緊急手術が必要な症例で、消化管穿孔、絞扼性イレウス、くも膜下出血、虚血性心疾患の緊急心カテが必

要な症例、大動脈解離などが挙げられる。

②救急車受入困難件数・事由

資料1-3

2024年10月までの救急車受入困難件数は549件。昨年度同期の合計が829件で減少している。

受入れ困難の理由は、救急車重複・病棟急変・満床の198件が最も多い。平日日中は救急外来医師が2名以上の体制で、また、10月からは常勤医師が2名での体制となったため、受入れ困難が減少している。10月を例にあげると、重複によるお断り20件のうち、平日日中は3件程で、主に、休日夜間が重複による受入困難となっている。

2次適応外との判断は、交通外相、手指の切断、熱傷、意識障害、けいれん、他院にかかりつけがある、という症例があるが、現在は一旦受入れた後、3次等へ転院搬送となる事例も増えてきている。

各科での対応困難は、精神疾患をともなう症例、透析対応ができない、耳鼻科や小児科が予測されるケース、胸痛で緊急カテーテル治療が必要な循環器対応が困難という事例があった。また、10月は一時期整形外科の患者急増により、手術対応が困難となった。32件中13件が整形外科関連の受入れ困難となっていた。

他には、10月より救急科での入院対応が開始され、入院日数や症例は多くないが、1か月間に11名の救急科入院があった。

○6月から診療報酬の改定があったが、下り搬送は実際あるの？

- ・大学病院より当院に転院の場合は加算がとれないが、自治より1件あった。
- ・済生会とは連携協定を結んでいないが、済生会に搬送され、その日のうちに当院への搬送もあった。

○かかりつけの患者以外が救急搬送された時、マイナンバーカードは活用されているか

- ・マイナンバーと保険証を紐づけはしてあっても持参する患者が少ない。
- ・意識の無い患者のマイナンバーカードが使えるよう、小山市消防本部が実証実験を行っている。救急車にマイナンバーのカードリーダーを置き、薬などの情報などが得られる。ただしこれにはランニングコストがかかるため、栃木市消防本部は検討中。

③紹介患者に対する医療実績（紹介率・逆紹介率）

資料2

2024年度10月までの累計で、紹介患者数は5,634名・紹介率87.3%、逆紹介数は6,089名・逆紹介率94.3%。昨年10月までの累計と比較すると、初診紹介患者は255名の増加、逆紹介数も771名の増加があった。連携室では紹介いただいた先生方に、診察した医師からの報告が届くよう返書管理を行っている。来院数日後に返書が出ていない場合は医師への声掛けを行っているが、紹介いただいた患者で不明な点がある場合には連携室にご連絡いただきたい。

④研修会について

資料3

2024年度10月まで9回の研修会を開催し、今月も2回予定あり。その他、年度内には症例検討会を1回計画している。10月の症例検討会では院外の参加者が4名と少なかったものの、参加いただい

た先生との活発な意見交換ができた。対面での研修会も多くなってきたので引き続き計画していきたい。また、市民公開講座も定期的に開催しており、多くの参加者あり。

⑤共同利用実績

資料4

2024年10月までの件数はCT293件で昨年度比9件減、MRI733件で昨年度比56件増。

胸腹部骨盤撮影6件、骨密度74件、超音波200件、脳波1件、内視鏡3件で合計1,311件。

全体では前年度比21件増加。

また検査ではないが、登録医療機関の先生方に図書室を利用していただいている。ご利用に際しては連携室までご連絡いただきたい。

(2) その他

○在宅療養後方支援について

- ・現在12件の医療機関と連携し、2022年12月から累計108名の患者登録を行っている。今年度、現在までに9名の緊急入院の受入れをしている。

○介護保険施設との連携について

- ・地域の介護保険施設との円滑な連携にむけ連携締結を行い今後も定期的に話し合いを行う予定。

○糖尿病教育入院の歯科連携について

- ・歯科医師会の連携委員より、事前に糖尿病教育入院の人数を知らせてほしい。
また、患者の情報もいただきたい。以前、患者の口腔ケアレクチャー（歯周病についてなど）後に、総義歯ということがあった。
- ・歯周病健診の追跡調査結果も教えて欲しい。
→糖尿病チームに伝え、検討後、先生にお返事する

○救急車の適正利用について

- ・9月20日、しもつがから東京都内へほぼ同時刻に2件の転院搬送があった。その日は119番対応も多く、勤務明けの職員が招集され、救急車が全て出はらってしまうという事態になってしまった。入院中の患者の転院については、医療機関の管理と責任において実施されるものであるため、転院搬送時の救急車の適正利用を検討してほしい。
- ・栃木市消防本部消防課調べより 令和5年12月から令和6年11月まで、管内救急出動総数8,177件のうち、しもつがからの転院搬送依頼は209件で31%。その中で、医師または看護師が同乗したのは101件で48%。また、同期間でもつがから県外への搬送は6件。
今後高齢化社会に向かい救急車の需要が高まる中、市民にも救急車の適正利用を呼び掛けている。
- ・茨城県には転院搬送のガイドラインがあり、救急車使用の適正化を図っている。今回の9月の事案について、1月に行われる事後検証会に提出し、茨城県を参考にガイドライン作成について、検討していただく考えでいる。

転院は、転院元の病院の管理下であり、医師または看護師の同乗をお願いしたい。

- 東京に同日のほぼ同時間に転院2件という過去に事例の無いようなことが起こってしまった。
予定転院であれば、計画的に移送手段の検討、例えば民間救急なども使えなかったと思うが、病状によって判断している。転院の移送手段の判断は、医師が行なっている。転院時の救急

搬送について、適正利用になるよう、院内へ発信していく。

(3) 次回開催について 2025年3月7日（金）13：30～予定

2024年度

とちぎメディカルセンターしもつが 地域医療支援病院運営委員会議事録

日時：2025年3月7日（金）13：30～14：00

場所：とちぎメディカルセンターしもつが A会議室

出席者： 下都賀郡市医師副会長 下都賀歯科医師会会長 栃木地域薬剤師会会長
栃木県南保健所所長 栃木市健康増進課課長 栃木市消防本部次長（代理出席）
病院長 総合連携推進部長 事務部長 看護部長 看護副部長

1. 開会 病院長
2. 挨拶 病院長
3. 議事

（1）2024年度実績について

①救急医療の実績

資料1-1、1-2

2024年度2月までの報告。救急患者総数（ウォークイン含む）5,879名、うち救急搬送患者数は3,844名で、救急搬送患者率は65.4%。入院数は1,670で入院率は43.4%。ウォークイン患者は2,035名で、うち入院は391名、入院率19.2%。2023年度2月までと比較すると、救急患者総数（ウォークイン患者含む）は5,879名でしたので、782名増加。救急搬送患者は605名の増加、救急搬送入院患者数も276名増加で、ウォークイン患者も177名の増加。

昨年度の12月救急搬送数374名に対し、今年度は70名増加の444名。1月は多くの救急受け入れがあった一方でお断り件数も多かった。

【当番日】

救急患者数は3,709名で、前年と比較すると513名の増加。そのうち救急搬送者数は2,570名で358名の増加、救急患者の69.3%が救急搬送。入院患者数は1,169名で入院割合は45.5%。ウォークイン患者は1,139名で155名の増加、入院患者数は229名で67名増加であった。

【当番外】

救急患者数は2,170名で、前年と比較すると269名の増加。そのうち救急搬送者数は1,274名で247名の増加。救急患者の58.7%が救急搬送。入院患者数は501名で入院割合は39.3%。

ウォークイン患者は896名で40名の増加であった。

当番日・当番外の比較で、救急外来受診患者救急搬送割合が、当番日69.3%、当番外58.7%と、当番日の方が高い傾向である。また、救急搬送患者の入院割合も当番日の方が高い。

当番日・当番外、救急搬送・ウォークイン、および入院数ともに前年度より大幅に増加している。昨年度までは救急搬入率が6～7割程度だが、今年度は8割以上を維持していたが、1月65%であった。また、一旦当院で救急受け入れをした後、救急外来から3次医療機関等、他院への転院も

増加している。昨年度は1月までに77件の転院搬送であったのに対し、今年度は118件に増加。症例としては主に緊急手術が必要な症例で、消化管穿孔、絞扼性イレウス、くも膜下出血、虚血性心疾患の緊急心カテが必要な症例、コロナの重症例や希死念慮がある患者の精神科対応可能な病院への転院搬送などが挙げられる。

前回の会議で入院患者の転院搬送における救急車の適正利用と、医師または看護師の同乗について栃木消防の方からご意見をいただきましたが、院内に周知し状態悪化や不安定な患者の3次等への転院以外は民間救急の利用を推進している。

②救急車受入困難件数・事由

資料1-3

2025年1月までの救急車受入困難件数は1,001件。前年度同期の合計より392件減少した。

昨年度1月は、当院コロナクラスターによる入院制限があり、279件受入困難だったが、今年度も258件となってしまった。

受入れ困難の理由は、救急車重複・病棟急変・満床などの物理的理由が最も多くの465件だった。前回会議の報告で7月8月の救急重複・満床40件越えとなった理由は救急外来での重複だったが1月の177件は年末年始の救急患者が急激な増加したことにより、救急外来での対応重複のほか、1月6日以降は予約入院・一般外来の緊急入院も多く、病床満床状態が続き受入困難となった。

病床逼迫状態が続いたため、1月中は急遽予約入院の一部制限を行い、延期できる患者は延期するよう各診療科へ依頼し、病床確保に努めた。近隣医療機関も病床逼迫状態が続いていることもあり療養病院や回復期病院への転院も時間がかかってしまっていて病床確保が厳しくなっていた。

2次適応外との判断は、交通外傷や手指の切断、熱傷、意識障害、けいれん、他院にかかりつけがある、という症例があるが、転院搬送が増加しているように、一旦受入れた後、3次等へ転院搬送となる事例も増えてきている。

各科での対応困難は、精神疾患を伴う症例、脳梗塞の疑いで緊急対応が必要な症例、小児科対応が予測される症例、胸痛で緊急カテーテル治療が必要であり、循環器対応困難という事例があった。また、10月にもあったが1月も整形外科の手術適応患者が急激に増加し、手術が予測される整形外科関連の症例が受入困難となってしまった。

○2024年救急出動件数が過去最多となり、大川市長が救急車の適正利用を促していたが、1月にコロナやインフルエンザが流行した時ほとんどが65歳以上の高齢者で、管轄内の8台が全て出払ってしまい逼迫していたとニュースで見た。適正利用でない例は実際にあったのか？また全て出払ってしまった時の対処方法はあるのか？

・適正でない事例があったかについては現時点で回答できないが、重複してしまって8台すべて出払ってしまったことは過去にも数回あった。その場合は他の消防本部からの応援を要請したり、救急車が病院に到着してから引き継ぎを終え、出動可能になり次第速やかに出動態勢をとれるように対策している

○年末年始等に、ウォークイン患者が多かったとあるが、時間帯などはわかるか？急患センターで発熱等の問診を電話で聴取するのでどうしても引っ張りなしになってしまい、電話が繋がらないというクレームが入ることもあった。急患センターでの受入れが十分に出来ていなかったこともあり、その患者がしもつがに流れているのではないかと

- ・昼夜の割合について現時点で正確な時間帯の回答はできないが、0時を過ぎるとほとんどウォークイン患者はいない。急患センターの電話が繋がらず、当院への問い合わせや患者の直来になる事例があった。年末年始はとにかく患者が多かった

- ・電話での問診を短くするなどの対処はしているが、今後さらに改善していきたい

○しもつがは、顎顔面外傷に伴う下顎骨骨折や歯の脱臼などは対応できるのか？（

- ・口腔領域の症例は、医師の判断で口腔外科がある医療機関（獨協医科大学病院等）へご案内している（

○満床時など退院調整をするにあたって、しもつがからの転院先はどこが多いのか

- ・療養、回復期などはとちのきに送ることが多く、患者さんの状態や家族背景などにより栃木県内各所、南から北まで送っている。県内で見つからず家族の了承を得て県外を探すケースもある。受け入れる側も病院の機能や在院日数等、病床数だけではない様々な問題も考慮して病院を選定しなければならないことも、調整に時間がかかる要因となっている（

③紹介患者に対する医療実績（紹介率・逆紹介率）

資料2

2025年度1月までの累計で、紹介患者数は7,958名・紹介率は87.6%、逆紹介数は8,633名・逆紹介率95.0%。昨年度1月までの累計と比較すると、初診紹介患者は312名の増加、逆紹介数も784名の増加がみられた。1月から耳鼻科常勤医が赴任し、入院も2件受入があった。

④研修会について

資料3

2025年度1月まで14回の研修会を開催し、今年度初めてCPCのご案内をさせていただいた。

残念ながら院外の先生方の参加はありませんでしたが、開催時間が早くご参加いただけなかったと思われるので今後は先生方と相談して開催時間を調整していく所存である。

また、市民公開講座も定期的に開催することができ、多くの方にご参加いただけた。

⑤共同利用実績

資料4

2025年1月までの総数は1,831件、前年比46件の増加。内訳はCT 402件で前年比25件減、MRI 1,502件で前年比107件増、頭部と整形外科領域の依頼が多数。

胸腹部骨盤撮影6件、骨密度99件、超音波267件、ホルター心電図1件、脳波1件、内視鏡3件

また検査ではないが、登録医療機関の先生方に図書室を利用いただいている。今後も先生方の研究などにお役立ていただきたい。

○在宅療養後方支援について

- ・現在13件の医療機関と連携し、登録患者数は63名。

今年度は1月までに22名の緊急入院の受入れをしている。

(2) その他

○介護保険施設との連携について

- ・地域の介護保険施設との円滑な連携に向け連携締結を行い、会議を開催して双方の現状や緊急受診時の連絡方法などについて話し合いを行った。そのなかで、介護施設の方から「救急車を呼んだあと、病院に電話するように救急隊から言われてしまう。状態による事前連絡の要否を判断するのが難しい。どうしたらいいか？」と質問があった。患者さんの状態や、介護施設側のマンパワー不足等様々な状況にもよるが、ある程度患者さんの状態が安定している場合は事前に連携室へ連絡、患者さんの近くを離れられないような急変時（血圧低下や意識レベルの低下などの容体悪化）は、連携室が介入すると時間がかかってしまうこともあり、すぐに救急要請して救急隊が接触してからの判断で良いと、共通認識した。
- ・どのような会議でその話になったのか？（本名）
- ・介護施設側の施設基準（病院と施設で密に連絡をとり普段の受入れがスムーズにいくように）を改定するにあたり、特養（19施設）との情報交換会を12月に行った。日中・休日夜間の有事の相談や事前連絡はどうしたらいいかで困ってしまっている、などの意見があった。
- ・施設側が患者の情報を持っていることもあり、救急隊が到着する前に事前連絡しておいたほうが早く搬送できるということから事前に病院に連絡するようお願いをしている。（本名）
- ・一刻を争う場合は直接救急要請してほしい

○糖尿病患者の歯周病健診で、担当医と歯科医師の事前連絡の運用はどうなっているのか

- ・既に歯科医師会の事務局に連絡を行っていると担当者から回答をもらっている。義歯や総入れ歯の有無も問診時に聞き取りを行い、歯科医師へお伝えできるようにしている。

○来年度以降の地域連携協力歯科医院の数は本年度より増加してもいいか？

- ・加算に関する件数は増加していないか、入院前にかかりつけ歯科受診を勧めている
- ・医科と歯科の連携は社会的背景であり、推奨されていることなので是非増えてほしい。

(3) 次回開催について 2025年6月6日（金）13：30～予定

2024 年度

(様式例第19) 患者相談の実績

患者相談を行う場所	患者相談窓口 医療福祉相談室
主として患者相談を行った者 (複数回答可)	事務職員・社会福祉士・看護師
患者相談件数	453 件
患者相談の概要	
別紙のとおり 「2024年度患者相談窓口対応の実績」	

(注) 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。

2024 年度 患者相談窓口対応の実績

【相談内容別】

相談内容	件数
医療相談（疾患・診療に関すること）	55
入退院・生活上の不安	113
制度に関する（保険・介護）	49
医療費等、経済的な問題に関する	38
受診相談	43
医療者の対応等に起因する苦情	38
院内設備・制度等に起因する苦情	20
セカンドオピニオンに関する	3
情報共有	29
その他	65
合計	453

【相談者別】

相談者	件数
患者	140
家族	148
行政	42
福祉サービス	27
職員	82
その他	14
合計	453

患者相談窓口 来談件数
189 件数

主な事例

1. 医療相談

- ・入院中の家族より、
入院中に主治医からの病状の説明がない、病状をしりたい。
検査を行う説明はあったが、結果説明がない。⇒当該病棟、または主治医へ対応依頼
- ・外来患者の家族より
積極的治療をしないといわれたことに対する不安 ⇒ 治療方針の再説明
- ・退院時に誤薬したと聞いた、薬の名前と薬効をしりたい。⇒ 病棟師長対応

2. 入退院・生活上の不安

- ・入院患者の家族より、入院中の様子を知りたい、退院と言われたが患者の様子がわからない、相談したいなど ⇒ 該当病棟へ対応を依頼。

3. 医療者の対応等に起因する苦情

- ・職員同士の言葉遣い（なあなあな感じがする。）
- ・入院患者家族より、渡してものを、看護師から持ってくるように言われた。

4. 院内設備・制度等

- ・ATM がないため、退院時に支払いが不便
- ・面会制限についての不満

様式例第19) 患者相談の実績

患者相談を行う場所	患者相談窓口 医療福祉相談室
主として患者相談を行った者 (複数回答可)	社会福祉士 精神保健福祉士 看護師
患者相談件数	7787 件
患者相談の概要	
別紙のとおり 「2024年度 医療福祉相談室相談の実績」	

(注) 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。

2024年度 医療福祉相談室相談の実績

1. ケースの人数

区分	件数
総数	7,787
実人員	501
新規	443
継続	7,344
継続実人員	446

2. 対象者

区分	件数
入院	6,635
外来	1,075
自宅	7
その他	70

3. 住所

区分	件数
栃木市	4,293
大平町	987
岩舟町	524
藤岡町	669
都賀町	369
西方町	32
壬生町	363
小山市	246
その他	304

4. 相談方法

区分	件数
面接	655
電話	3,675
訪問	1
文書	21
来所	177
その他	3,258

5. 相談者

区分	件数
本人	1,019
家族	1,247
院内職員	3,148
行政機関	423
施設・医療機関	1,436
居宅支援事業者	320
その他	194

6. 相談内容

内容	件数
経済的な問題に関すること	126
退院に関すること	770
障害者支援に関すること	38
行政との連携に関わること	270
治療の問題に関わること	95
カンファレンス	67
その他	6,421

(様式第 20)

その他の地域医療支援病院に求められる取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	☒ 有・無
2024年1月 受審 8月認定 公益財団法人日本医療機能評価機構 (主たる機能：一般病院2 機能種別版評価項目3rdG：Ver.3.0)	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有・無
・情報発信の方法：連携ニュースの発行 ホームページ 広報誌 ・内容等の概要：研修会のお知らせ・休診のお知らせ	

3 退院調整部門

① 退院調整部門の有無	☒ 有・無
・退院調整部門の概要：専任看護師 専任社会福祉士 病棟カンファレンスへの参加、患者面接を行っている。	

4 地域連携を促進するための取組み

① 地域連携クリティカルパスの策定	☒ 有・無
・策定した地域連携クリティカルパスの種類 脳卒中クリティカルパス・大腿骨頸部骨折パス・糖尿病地域連携パス・ ・地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み	